

県へ重要要望書を提出

8月4日、山岸市長および関係部長が県庁を訪れ、勝山市が福井県に対して強く要望する内容をまとめた要望書を提出しました。



要望書を手渡す山岸市長（写真左）

主な要望事項

- ◆大蓮寺川河川改修事業の整備促進
- ◆長尾山総合公園の再整備について
- ◆国・県道の交通不能区間解消について
- ◆一般県道勝山インター線の早期整備
- ◆農林業の振興について
- ◆文化財の保護について
- ◆子育て支援策の充実について
- ◆福井勝山総合病院への医師派遣について
- ◆観光の振興について
- ◆民間所有による歴史的建造物の保存活用について

エコ協通信

8月エコ協通信

10地区のエコミュージアム活動の取り組みを順番にご紹介しています。

第7回は北谷町です。

北谷町まちづくり推進協議会では平成14年度からは文化遺産・自然遺産の整備事業、案内看板の作成事業、平成15年度からは「鯖の熟れ鮓」事業、昔の食通事業、平成17年度からは遺産めぐりウォーキングなどは、色々と趣旨を変えて事業を行なってきました。その後、平成22年度からは、昔流行った「昔おどり」を復活させて事業を平成25年度まで継続して実施してきました。

○「昔おどり」とは

北谷町の住民達の間で伝わっていた「二本搦（せんほんづき）」「や」「いや」「ちようちよ」などといった民謡の生唄に乗せておどる踊りで、昭和35年頃まで町内各區でこの「昔おどり」といわれる盆踊りが盛んに行なわれていました。

しかし、民謡に代わって歌謡曲をレコードで流して踊るスタイルが流行し、併せて、豪雪などによる過疎化が進んだため、次第に民謡と踊りが忘れられていきました。そこで、地元で活気をとり戻そうと、北谷町



「昔おどり」の様子



練習風景

まちづくり推進協議会が立ち上がり、この「昔おどり」を復活させました。

○「昔おどり」の指導

踊りを覚えるのに、地元出身で踊りの上手な人たちの指導を仰いだり、昔のビデオテープの記録映像を持っている方にお借りして「昔おどり」の練習を重ね、覚えていきました。

最初の年度は、踊りもそうですが、唄に関しても唄える人がなかなか居なくて苦労しました。年数を重ねていくうちに唄は上手になり、踊りもさまになってきました。平成22年8月15日の「昔おどり」会場は、木根橋区白山神社で行ない、翌年は谷区伊良神社と地区を交代して行なってきました。

参加した人たちが老いも若きも一諸になり、夢中になれたということは、「昔おどり」の楽しみ方を共感できたということではないでしょうか。

文章 北谷町まちづくり推進協議会事務局 ☎87・1011



子どもも参加

田（水稲）の部（単位：円/10a）

地区名	区分	平均額
平泉寺	基盤整備地域	8,600
	未整備地域	6,900
勝山猪野瀬	基盤整備地域	—
	未整備地域	7,000
村岡	基盤整備地域	8,600
	未整備地域	7,100
野向	基盤整備地域	10,600
	未整備地域	7,900
荒土	基盤整備地域	10,600
	未整備地域	8,600
北郷	基盤整備地域	11,100
	未整備地域	8,700
鹿谷	基盤整備地域	10,100
	未整備地域	8,200
遅羽	基盤整備地域	9,300
	未整備地域	8,700
農事組合法人（集落営農）	基盤整備地域	13,200
	未整備地域	13,900

※勝山市平均11,100円/10a

勝山市農地賃借料情報

平成25年1月から12月までに締結（公告）された賃貸借における賃借料水準（10a当たり）は、右記のとおりです。

農地の賃貸借契約を締結する場合の目安としてご利用ください。

◆このデータは、賃貸借（有償）における賃貸借料データ（筆）のみを対象としており、無償のデータは含まれていません。また、各地区の金額には、農事組合法人は含まれません。なお、締結数が5筆未満は情報の偏りを考慮し、公表しません。金額は算出結果を四捨五入し、100円単位としています。

農業委員会（市役所1階） ☎88-8115

「勝山エコライフ」プログラム



第28回 赤とんぼと共に生きるプロジェクト 4年目の夏の成果

勝山市では、4年前から赤とんぼ調査を始め、今年は全小学校と市民調査員が参加しています。水田で羽化したばかりの赤とんぼの翅に印を付けて放し、その移動経路を調査してきました。初年度より、日本初となる「アキアカネが平地から山地へと移動することの直接的証明」という成果が生まれ、以降毎年同様の移動が1例ずつ確かめられてきました。

調査4年目の今年、新たな発見がありましたのでご報告します。◆アキアカネが白山まで飛翔 1つはアキアカネが鹿谷から法恩寺山山頂に移動したこと。発見者は、日本初の発見を行った東邦大学の菅原みわさんです。直線距離で約12km、標高差で約1100mの移動になります。

もう1つの発見は、アキアカネが鹿谷から石川県の白山に移動したこと。白山は国立公園であり、アキアカネの捕獲ができないので、約400個体を撮影して確認しました。今回、アキアカネが石川県に移動したことが確かめら

赤とんぼ調査の成果が 未来へ遺すべき自然

石川県では赤とんぼの幼虫に有害な農薬を広く使用しているため、赤とんぼの発生数は非常に少なく、今回の発見から、白山で多数見られるアキアカネの一部は福井県生まれのものだと言えそうです。鹿谷小と発見場所の標高差は1400m、移動距離は、これまでに約30kmにもなりました。



白山で発見されたアキアカネ（丸の中にオレンジマークが2か所）

◆小学校の努力が成果に 今回発見されたアキアカネは、いずれも鹿谷小学校で印（オレンジマーク）を付けられた個体でした。鹿谷小だけで今年3000個体も印を付けています。この子どもと教師の努力が報われ、最先端の研究成果となって表れたことをとてもうれしく思います。アキアカネは、9月初旬までは高い山におり、それ以降は平地に降りてきます。7月終わりに市内の小学生が山の上でも調査を行いました。皆さんもぜひトンボの翅に注目してください。もし秋の平地で印付きのトンボを見つけたら、これまでにない大発見になります。